いそねこ協議会アンケート2022

1・年会費1000円について

高い	0
安い	6
ちょうどよい	23
その他	4

その他:
1000円以上
値上げすることで、より多くの猫を救えるようになるのであれば、上げてよいと思う。
年金者には助かりますが、郵便代等の今のご時世を考えますと、多少の値上がりはやむおえません。

2・会の予算を地域猫活動以外に割り当てることに関して

ノラ猫の手術が進むならTNRに補助	29
TNRのみは反対	0
どちらでも	1
わからない	0
その他	3

その他:
・その後きちんとしたえさやり、片付け、里親探し、終生世話すること
・情報集めという事ならば、子猫のみ補助金を出すなど何か工夫があると良い
・ノラ猫の苦情を言う人からよくそんなに可愛いのなら貴方の家に持って行って飼って下さいと言われます。それが出来れば楽なことかと思います。もっと地域猫が広まっていけば、多頭飼いが減っていく要因にもなっていくと思います。

3・地域猫実践グループに対する補助

手術時以外のノミダニ駆除剤の配布	21
フード配布	14
マイクロチップ	16
必要なし	1
わからない	0
その他	2

その他:
手術した場合や、担当地域以外のTNRを手伝った場合、その他協議会や区の要請を受けて捕獲指導などの活動を行った場合
予算に余裕があるなら
地域猫の責任の所在がさらに明らかになるので良いと思う
地域猫や貰い手探しの猫に使える医療費等の基金(申請を受けて出すお金)。

4・役員の仕事やイベントの手伝いなどに対する報酬

賛成	20
反対	2
どちらでもよい	6
わからない	1
その他	2

その他:
元々ボランティア活動なので無くても良いですが、一部費用の支出がある事で、参加への前向きな気持ちが高まるきっかけになると思います。

ねこの会のバザーグッズの移動やテント設営など(力仕事)をお手伝いいただいているボランティアさんの旦那さんには、ガソリン代等片道1000円などのお礼がしたい

5・多頭飼育問題に会の予算を利用してよいか

不妊去勢手術費に出すのは賛成	22
新しい飼主を探す費用として	20
行政・福祉・地域住民の見守りが可能なら賛成	22
手伝いのボランティアへの費用として	18
相談を受けたら基金を募る	4
飼い主が支払うべきなので反対	1
どちらでもよい	0
わからない	0
その他	3

その他:
・時代とともに猫をとりまく環境は多様化していくと思います。まずこういった問題に関わってみて、今後も活動内容に含めるかは、その時々で決めると良いと思います。

・みなさんの募金や会費なので再燃しないように努力しなければならないと思う。屋内、野外などで多頭になっているかなど、色々ケースが考えられるので、その都度どこまで出すのか考える事になるのでは?と思う。

・うちうち？のその時点での経済状態によって答えが変わってくると思う

・相談があった時に使えるような予算枠を作っておく

・ケースバイケースだと思うが、多頭飼いで問題が生じているという事は、すでにその飼い主の手に負えない状態であると思います。よって飼い主に継続的飼育させる以外の方法で問題解決と他の金銭的支援をするべきだと思います。

6・多頭飼育問題を起こした飼主に何を求めるか

・終生愛情を持ち、ご飯トイレなどの面倒を見て、体調が悪い時には動物病院へ連れて行き、猫の健康と幸せを願うこと
・里親探しの協力
・飼い主が生存している場合は、深い反省と今後の対応。死亡している場合は、親族にはそれまで放置していた事への反省と猫の里親探しへの協力。
・増やさないよう努力することを約束させ、出来る限り里親を探して必要な器具やエサを援助して引き取ってもらうようにす
・協議会が①猫を管理することへの同意②所有権放棄届兼誓約書の書類へのサイン③可能なら費用の一部負担など④問題解決のための協議会指導に従うなど。①と②は緊急を要する時には必ずしも必要ではない。

・今後は猫は飼えない事

・不妊去勢手術をちゃんとしてほしい。猫の為につかってほしい。

・責任が持てないのであれば、これ以上動物を飼う事を絶対にしないように要求する。

・可能な限り里親を探し、飼育頭数を減らす努力をして欲しい。処分されるような事は絶対にやめて欲しい。

・1頭につき諸費用として毎月2万円を支払ってもらう。

・これ以上頭数を増やさない。最後まで世話をする。

・避妊去勢手術を行わなかった結果、不幸な猫が増え環境が不衛生になる事を理解し、補助金とボランティアの活動で頭数が増える事を防いだ事をよく解って欲しい。これをきっかけに少しでも出来ることを率先してやってほしい。動物の生命を最後まで責任を持って関わって欲しい。

・動物飼育は無理だと思うので、もう飼わないでほしい。

・ボランティアの話に理解をしてもらい、協力をしてもらう。

・適正な飼育が行われるように新しい飼い主を探し、無理な多頭飼育を再び繰り返す事のないように確約、守れない場合は補助金の返還の義務の誓約。

・特に求めない

・去勢手術避妊手術をして、血液検査で感染症の有無を調べる。感染症がある場合は隔離したりして治療する。トイレ掃除を欠かさず虫駆除をして衛生的な環境で規則正しく食事や水を与え、運動（遊び）出来る環境を整えて飼育する。多頭飼育が難しい場合は譲渡先を探す。

・新しい飼い主を探すまでの費用を出来る限り払っていただく事

・安易に補助金を出す事に反対なので…。親族には何を求めても無理だと思うし、飼い主以外の人に何かを求める事(金銭等の負担）は可能なのか？

・本来飼い主が費用を負担すべき、とは言っても、多頭飼育となってしまったきっかけが、かわいそうな猫を放っておけなかった、ということもある(多い？）ので、責めることはできない(ことが多い？）です。今後はいそねこ協議会にご協力いただければ…。親族は財産を相続するのであれば少なくともその範囲内で費用を支払って欲しいです。

・少しでも出来ることをやってもらう。一部のボランティアや獣医療関係者が労力やお金を負担するのはおかしいので、そうならないように努力して、何よりも手を貸してくれる人たちに感謝の気持ちを示してほしい。

・親族も大変と思うので、保護して飼い主さんをみつけてあげたら、でも大変ですね。

・お金。新しい飼い主を捜す強力。20年以上前になりますが磯子区で火事で飼い主が亡くなり8匹の大人の猫が残され、3人でなんとか里親捜ししました。親族に手紙を出しお金を出してもらいました。もちろんそれだけでは足りませんでしたが、お金があると解決しやすいです。

・費用負担

・費用の一部協力を

・不妊去勢手術の必要性を説明し、手術に同意してもらう。

・もし猫を譲渡する場合は活動にできる限り参加してもらう。

・飼育するのが困難な人と客観的に判断されたら、その人には飼い主としての資格は放棄してもらいたい。代わりにその猫たちの新しい飼い主探しに金銭的支援をするべきと思う。

7・もし100万円あったら

・病気の猫、年寄りの子、出産間近の子、生まれたての親のいない猫たちを保護してくださる方に諸費用として使っていただく事。　１千万円あれば小さな保護施設が出来たらお手伝いしたいと思います。

・活動してまだ1年未満にもなりません。「らしい」と言われても…ただ、地域のどこかにどんな猫が何匹とかいうマップでもあれば（これがマイクロチップの必要性なんでしょうか？）

・引き取り手のない猫たちの施設を作ってその活動費に充てると良いと思います。

・ボランティアグループが捕獲・手術を行った際フードを配布。登録ボランティアが各種手伝いを行った際フードを配布。イベントの手伝いならその場で配布。その他はねこの会に取りに来てもらう。など。ねこの会に足を運ぶきっかけにもなる。もちろんフードではなくエサ代としてお金でもよいと思います。協力動物病院への手術料金助成、各種処置時の増額。

・猫の幸せを第一に何でもよいです。

・各グループの活動資金など。

・新しい飼主さんが見つかる事と、増やすために譲渡会を増やしたり、規模を大きくしたり、ネットでPRをしたり、それを行うために必要な人,物、時間などに使う。

・リモコンで自動で扉が閉まる捕獲機を2台ほど購入し、何度も同じ猫が捕まる、最後の１匹が捕まらないなどのケースに使用できると思う。

・地域猫やノラ猫を保護して人との生活にならしてから里親募集をしていく活動の費用として使いたい。

・保護猫施設やカフェなど、いつでも猫とふれあえて譲渡も出来るような場所。

・外猫(飼い主がいない）とわかったら、短時間で避妊去勢手術を行えるように使いたい。ケガや病気の治療費、一時預かりシェルターなどにも使いたい。

・エサやりしてくれる方々へのエサ代として。

・病気や弱った猫を保護する地域猫施設の一部にしてほしい。飼い猫と違って養生する場所がない。

・地域猫活動のフード類やトイレ用品などやTNRに必要な器具等の購入や諸費用に。協議会の活動の啓蒙に繋がるイベント等の開催などに。

・この活動が継続できるよう、参加してくださるボランティアの方の負担軽減。交通費や謝礼。

・捕獲機(トマホーク)を購入してレンタル出来るようにする。保護猫一時預かり施設の運営。（施設が無理なら個人ボランティア活動費）。地域猫のワクチン、ウイルス検査や医療費。

・可能な限り猫には幸せに一生を送って欲しいので、飼い主を捜す事を第一に、不可能な場合は地域猫として生きてもらうために地域住民に嫌がられないような問題解決のための資金に一部使えれば。

・新しく地域猫活動を始めた自治体や被災ペットの保護団体への寄付。

・猫の福祉に役立つのであれば積極的に使いたいですが、何にどの位の費用がかかるのかよくわからなくて(計算が苦手で）、よいアイデアが書けず申し訳ありません。

・地域猫や貰い手探しの猫の医療費や検査代などを補助する基金を作る。100万円では全然足りないけれど、ネコリパなどの保護猫カフェと共同で保護猫カフェを運営する。

・良い考えが浮かびません、すみません。

・保護猫たちのエサ代もしくはエサの支給などの補助

・猫には罪がない。幸せになる事に使って下されば幸いです。

・活動の成果を上げている団体への支援

・保護猫たちのシェルターづくり

・保護猫たちのPR活動。ネットでいそねこをPRする。

・ペットショップと連携した保護猫の譲渡会のあり方を提案。例えばペットショップの一角に継続的にが望ましいとは思う。単発的な譲渡会の実施は限られた人のみへのアピールだが、ペットショップを訪れる人にも広くアピール出来、啓蒙にもなる。ペットショップ側にも今や企業として社会的責任としての活動を支援しているという姿勢をアピール出来るのでメリットはあるはず。